

表 11 病院種別の外来患者数などの推移（医療法人）

				1床当り1日平均 外来患者数	医師1人当り 外来患者数	看護師1人当り 外来患者数	病床利用率	
(病院数)				(人)	(人)	(人)	(%)	
医療法人	一般病院	恒常的黑字	H16	(109)	2.0	16.7	3.4	76.9
			H17	(109)	2.0	16.4	3.4	77.0
			H18	(109)	2.0	15.9	3.3	75.9
		恒常的赤字	H16	(12)	1.3	11.4	2.3	76.2
			H17	(12)	1.2	11.1	2.2	74.2
			H18	(12)	1.0	10.2	1.8	71.4
	ケアミックス病院	恒常的黑字	H16	(114)	1.0	12.6	2.2	90.0
			H17	(114)	1.0	12.6	2.1	90.1
			H18	(114)	0.9	12.5	2.1	88.7
		恒常的赤字	H16	(16)	1.2	13.4	2.7	90.2
			H17	(16)	1.2	13.5	2.5	87.6
			H18	(16)	1.1	13.1	2.5	86.6
	療養型病院	恒常的黑字	H16	(105)	0.7	10.4	1.8	94.5
			H17	(105)	0.7	10.3	1.7	94.6
			H18	(105)	0.6	9.9	1.7	94.4
		恒常的赤字	H16	(3)	1.3	14.7	3.4	91.5
			H17	(3)	1.3	14.2	3.3	92.8
			H18	(3)	1.3	15.3	3.0	93.5
	精神科病院	恒常的黑字	H16	(105)	0.2	6.1	0.6	95.1
			H17	(105)	0.2	6.4	0.6	94.8
			H18	(105)	0.2	6.5	0.7	94.6
		恒常的赤字	H16	(4)	0.2	5.4	0.6	86.9
			H17	(4)	0.2	5.8	0.5	87.5
			H18	(4)	0.2	5.4	0.6	94.6

ところで病院は病棟建替えなどの大きな設備投資を行うと、たとえ優良病院であっても、資本費負担が先行して、安全性の悪化とともに、収益性も大きく低下する。そのため、赤字病院についてはそれが設備投資によるものか否かを見極めるため、設備投資負担を排除した償却金利前経常利益率（以下、SKK という）で見直す必要がある。この SKK で病院種別ごとの赤字・黒字病院の状況を見ると、表 12 のとおりで、恒常的赤字病院では設備投資負担を排除した SKK でも赤字もしくは低収益であり、設備投資が赤字の原因ではないことが判る。

表 12 償却金利前経常利益率（SKK 平成 18 年度 医療法人）

	(%)			
	一般病院	ケアミックス病院	療養型病院	精神科病院
恒常的黑字	10.9	10.3	12.7	13.5
恒常的赤字	0.2	0.4	-2.5	-1.3
黒字と赤字の差	10.7	9.9	15.2	14.8

全種別とも恒常的黑字病院の SKK は、概ね 10～13% レベルに収斂されている。

恒常的黑字病院と恒常的赤字病院の SKK の差は、長期入院型では、赤字病院の赤字幅が大きいので、その開きが大きくなっているが、短期入院型では概ね 10 ポイント前後である。

その差のうち、人件費の差が過半を占めている。たとえば一般病院の人件費比率は、黒字病院 55.4%、赤字病院 62.7% で約 7 ポイントの差、ケアミックス病院では黒字病院 60.6%、赤字病院 67.6% でちょうど 7 ポイントの差で、SKK の差の大半が人件費比